

ブラッセル日本人学校における国際理解教育の実践

前ブラッセル日本人学校 教諭

山形県東置賜郡高畠町立高畠中学校 教諭 吉川和宏

キーワード：在外教育施設、ブラッセル、国際交流、異文化理解、日本文化の発信

1. はじめに

ベルギーの公用語である英語・フランス語・フラマン語を学ぶ現地生徒、補習校の生徒との連携授業や現地校との学校間交流を行った。

ブラッセル日本人学校では外国語会話の授業があり、英会話か仏語会話を選択して学習している。フラマン語の学習はなく、現地の生徒とのコミュニケーションをとる方法は英語もしくは仏語とすることになる。そこで、本校生徒が英語またはフランス語によってコミュニケーションを図る様子を紹介する

2. 研究の実践

(1) ヨーロピアンスクールフェスティバル訪問

ヨーロピアンスクールは幼稚園から高校が敷地内にあり、約数千人が学んでいる。オープニングフェスティバルにおいて、よさこいソーランを大勢の観客の前で披露するという、日本の文化を発信する機会を得た。会場は観客席のある非常に大きい体育館で、演出も生徒が主体となった大々的な催しとなり、大いに盛り上がるものであった。数々のグループが様々なダンスや演奏といった発表を行う中、セレモニーの最後を飾るのがブラッセル日本人学校となった。入場と同時にスモークがたかれ、大きな歓声の中で生徒達は懸命に踊り、大きな声援を受けての発表となった。演技後には生徒がインタビューを受けるなど日本文化を発信し、受け入れてもらえた喜びを実感できた。帰校後の生徒の感想を見ても大きな充実感を得たようであった。



ヨーロピアンスクールでのよさこいソーラン発表の様子

(2) 補習校との連携授業

中学1年生が補習校の生徒との交流授業を行った。体育や音楽の授業を一緒に受けた後、日本とベルギーの文化や考え方の違いの意見交換をしたり、学校についてのパンフレットを作って説明したりして交流を深めた。

中学2年生は日本人独特の考え方、文化、言葉遣いについて寸劇を交えたプレゼンテーションを行った。補習校からも英語・フランス語・オランダ語についての発表を行い、互いの発表を見る中で感想交流などを行った。それぞれの感覚から見た日本人・欧米人について比較することができた。また、ワールドカフェやパネルディスカッションも行うことで、一つのテーマについての考えがどう違うのかなども体感しながら交流を進めることが出来た。



日本語に時折英語を交え、意見交換を行う様子



英語・フランス語・オランダ語における特徴について発表する補習校の生徒

(3) 学校紹介DVD作成

英語とフランス語によって日本人学校のことを知ってもらい、今後の学校間交流がスムーズにいくように中3で学校紹介DVD作成の作成を行った。現地校（インターナショナルスクール）の生徒に日本人学校についてどのようなことを知りたいかをインタビューし、その内容をふまえて生徒が構成を検討した。学校行事・授業・校舎案内の3つのテーマを、動画と写真を利用して作成し、英語とフランス語で原稿を考えた後、外国語会話教師の協力を得て現地生徒に伝わりやすいように原稿を修正して映像を作成した。完成作品は現地老人会の学校訪問時に視聴してもらった。



現地老人会へのDVD紹介・視聴

(4) モルロンウェイ アテネロワイヤル校との学校間交流

①小グループでの意見交換

自己紹介後に、日本についての質問を英語で行った。日本に興味がある生徒が多く、質問が飛び交い、笑顔も次第に増えていった。現地校の生徒の中には英語があまり話せない子もいたが、ジェスチャーなども交え懸命に伝えようとする様子が見られた。



現地校生徒との意見交換の様子

②書道体験

相手校生徒の名前の発音に合わせた漢字を組み合わせ、その字の持つ意味を英語で相手に教えながら、一緒に習字に取り組んだ。事前に英語で所作や道具の説明や漢字のもつ意味の説明を練習していたためスムーズに進めることができた。非常に興味を持って取り組んでもらえ漢字だけでなくひらがなやカタカナ、好きな言葉を日本語で言うとうどう書かなど相手からの要求も増え、とても盛り上がりを見せた。



事前に準備した相手の名前に合わせた漢字を相手に教える様子



完成作品を手に全員で記念撮影

③学校紹介DVD鑑賞・合唱披露

中学3年が制作した学校紹介DVDの「授業編」・「行事編」を観てもらった。DVDは基本的には英語と仏語での紹介で、聞き取りにくい部分は字幕をつけるなどの工夫も行った。映像と合わせて観ることで相手校の生徒に

も伝わったようで、集中して鑑賞していた。鑑賞後は近くの日本人学校の生徒にいろいろ質問をする様子も見られ、日本や日本人学校について興味を持ってもらう上でとても効果があったようであった。

DVDの行事編の中にあった合唱祭での学部合唱に興味を持ってもらい、鑑賞後に合唱を披露した。ベルギーの学校では集団で合唱をするという授業がないため、JSBの生徒が歌う様子に感動し、相手校の先生の中には涙を浮かべる人もおり、日本の学校ならではの合唱はとても良い印象を持ってもらえたようである。相手校の生徒も合唱が始まると、それまでざわついていた雰囲気から一瞬に静かになり、表情からも驚きや感動の様子が見てとれた。

④学校間交流後の生徒の感想より

- ・私たちが作ったDVD 紹介に対してどんな反応をするのか不安でしたが、見始めるとみんな真剣に、そして楽しそうに見てくれて嬉しかったです。見た後は、「これは～ということなの？」と質問までしてくれました。
- ・習字やDVD、合唱など日本の文化を伝えると相手の子は本気で聞き入ってくれて、私たちが思っているよりも日本の文化は美しいのかもしれないと再確認できました。
- ・合唱に感動して涙を流してくれた人もいて、言葉が分からなくても気持ちは伝わるものだ改めて実感できました。
- ・普段勉強している英語や仏語をこういう場で使うからこそ力がついていくのだと感じました。
- ・相手が日本文化に興味を持ってくれていたことに喜びを感じました。DVDが日本文化や日本の学校生活を知る上で役に立ってくれたら嬉しいです。

3. まとめ

ベルギーという多言語国家においては、仏語やフラマン語を母語にし、英語が第1言語ではない生徒も多いということがわかった。英語が母国語である生徒の英語は、日本語を母語とする生徒にとっては聞き取れない場面も多いかもしれない。一方で、英語が母語ではないベルギー現地校の生徒との交流においては、互いに第1言語ではない英語で説明し合うことで、伝えきれない部分を何とか伝えようと歩み寄ることができ、こちらの生徒の理解も深まり、交流する上で効果があるように感じた。

今回の実践を通し、ベルギーの文化を受信するだけでなく、日本文化を発信しようと学校紹介DVD作成を行った。学校間交流などでの様子を見ると、こちらが相手に歩みようとすればするほど相手もこちらのことを知ろうとしてくれ、交流も活発になると感じた。日本人学校独自の英会話・フランス語会話の授業での学習を生かした上での、国籍や言語をこえた異文化交流は日本人学校で学ぶ生徒にとって大変有意義なことであると思う。日本人学校で学ぶ生徒にとって、その国の中学生と交流を深めるということは、何よりも国際理解教育につながるはずである。そこには、メディアや資料からでは得られない本物の「国際交流」があるのではないだろうか。そこで得たつながりが、社会へ出てから将来何らかの形で発展したり、日本へ帰ってから周囲の友人に伝えたりすることで、国際交流・国際理解の裾野は広がり、世界で活躍する日本人の育成につながるのだと思う。



DVDはとても真剣に鑑賞してもらえ、鑑賞後は質問をされる場面も。



合唱「COSMOS」を披露。感動で目を潤ませる先生や動画を撮ろうとする生徒も。